農村開発・環境保全

ブナオの代替地、クロッド村のアグロフォレストリー　－ボニファシオの写真報告から－

クロッドは、山頂のわずかな平坦地に建てられたラムアフス小を私たちが訪ねる際に、車を置かせてもらったり、トイレを借りたりで立ち寄る麓の村です。住民の畑はその小学校に至る道の両側の山腹斜面にあって、アグロフォレストリーのニーズが高い地域です。

急きょ実施が決まった上、事業期間は 9 か月しかありません。組織化から、在来種苗木の 2 回の手入れ作業終了までの 1 年間の活動を、9 か月に凝縮できるか懸念しましたが、クロッドを代替地に推したボニファシオは、しばしばクロッドに泊まり込んで住民との話し合いをするなど、事業説明、参加住民の決定等に向けて精力的に働き、写真報告のように、すでに村には苗木が届き、整地作業も終わりました。

本事業は、この対象地域変更のほか、PFP 農業専門家ニックさんが担当から外れるという予期せぬ事態にも遭遇しました。家庭の事情で PFP を休職し、今後 2 年間、私たちのアグロフォレストリー推進事業の戦列を離れることになりました。試練続きですが、私たちの奨学金で育ったビラーン民族のボニファシオの力量が試されるよい機会でもあります。事業責任者でもあったニックさんの代わりは、定年退職した経験豊かなロニーさんが務めます。一方で、現場指導はボニファシオが中心になっています。

←クロッドのシチオ・リーダーなど主だった住民との打ち合わせ。左がボニファシオ　（7 月）

→

ココヤシ、コーヒーの荷下ろし作業。左端は、苗の数を確認する PFP 会計担当ビビアンさん（8 月）

←　竹の苗を満載の軽トラックから、荷下ろし作業。子どもも苗を傷めないように、一鉢一鉢、慎重にお手伝い。

→

すだちに似たカラマンシー苗。今回はこのほかアボカド、グアバノなど 5 種の果樹が選ばれました。果樹は売れなくても子どもの栄養源になります。

←　7 月から始まった整地作業。雨期の土壌流出を招く急傾斜地のコーン単作から、等高線状にバナナ、ココヤシ、コーヒー、各種果樹苗を植えて、その間にコーンを植える森林農業（アグロフォレストリー）への第 1 歩です。

事業では、写真のように隣接地にバナナやココヤシが実っている状況によく出会います。その多くは、入植者が借金のかたに、ビラーンやチボリから使用権を得た畑です。先住民族もそのメリットと方法を知ることで、森林農業への転換が可能です。次号ではアグロフォレストリーのメリットと技術を学ぶ研修を報告の予定です。

今後のアグロフォレストリー事業　－　新規実施は小規模に、成果確認、啓蒙活動を重点に　－

2003 年のノララ町エルクダ地区 11ha、3,150 本 から 2018 年 6 月末終了のコロナダル市ボルール地区 45ha、12,000 本まで、各種助成金を受けてアグロフォレストリー事業を実施してきましたが、次年度については、環境分野の助成金申請を控えました。主たる理由は以下の 3 点です。　①ミンダナオの戒厳令継続で当団体のモニター渡航が難しい。②環境保全事業の現地パートナーPFP の財政難、人材難。　③当団体の助成事業管理体制維持が難しい。

一方で、上段で紹介のボニファシオなど、奨学金で育った青年たちによる　①小規模アグロフォレストリーの実施、②過去の事業の成果確認、　③研修を通じての周辺住民への啓もう・指導、等の活動に対しては、自主財源で支援を継続する方向で、次年度事業計画策定時に検討したいと考えています。ご意見、ご助言お待ちしています。